



# 夏休みの思い出アルバム



## 水の週間にウナギとカニを放流

第32回全国水の週間にちなんでウナギとカニの放流が8月1日、志佐川で行われました。

今回で5回目となるウナギとカニの放流は、市水道課が平成16年度から実施している水の大切さなどの理解を深める親水活動の一環として行われたものです。

この日は、志佐小と上志佐小の児童、九州電力と電源開発の社員、ボランティアグループ「川西会」など約50人が参加。ウナギ約100匹とモクズガニ約400匹を放流し、きれいな志佐川を願いました。



放流を行った志佐小4年の益永佑樹君は「毎日使っている水を大切にすることと、生き物がたくさん生きていけるようなきれいな水を残していかないと思いました」と話していました。



## 頑張れ！もっと引っ張れ！

### — 夏休み恒例 カブトムシ綱引き大会 —

夏休み恒例行事のカブトムシ綱引き大会（今福公民館主催）が8月7日、今福公民館で開催されました。

今年は、小学生32人が自慢のカブトムシを持ち寄って参加し、今福町長寿連合会（川久保孟彦会長）の会員約10人が審判を務めました。

直径80mmの土俵の上で、2匹のカブトムシの角にひもを結びつけ、土俵の板をドンドンたたきながら、どちらが引く力が強いかを競いました。

結果は久重路 怜君（今福・仏坂住宅、今福小4年）が優勝。準優勝の中島萌絵さん（今福・福德、今福小3年）は「今年で2回目の参加です。カブトムシやクワガタムシはカッコいいので好きです。優勝できなかったけどうれしかったです」と話してくれました。

またこの日は、クワガタムシ美虫コンテストも行われ、中島憲吾君（今福・人柱、今福小1年）が優勝しました。



## 豆力士が熱戦 — 千燈籠奉納相撲大会 —

郭公尾地区の伝統行事千燈籠奉納相撲大会が8月17日、御堂様前広場で行われました。

郭公尾自治会（山本英人区長）が、地域住民の親ぼくと子どもたちの健全育成を願い毎年実施しています。

土俵上では、地元の園児・小中学生や夏休みで帰省した約10人の豆力士たちが熱の入った取組を展開。押し出しなどの技が決まるたびに集まった観客から歓声が上がっていました。

取組が終わると子どもたちや観客に、1年間の健康を願って、地区住民の手で作られた「力飯」と呼ばれる大きなおむすびが振る舞われました。

## 星鹿じゃんがら・牟田じゃんがら —お墓たいて無病息災—

無病息災や五穀豊穡を願う盆の行事「じゃんがら」が8月15日、星鹿地区と牟田地区で行われました。

星鹿地区の「星鹿じゃんがら」では、法被姿の子どもや大人約30人が地区一帯を練り歩き、僧の墓



「星鹿じゃんがら」

とされる石塚や浄土寺境内で長さ約20mの「大のぼり」や子ども用の「小のぼり」を地面に打ち付け、豊漁や無病息災を祈願しました。

牟田地区の「牟田じゃんがら」には地元住民や帰省した親子など約100人が参加。「御厨徳」の墓とされる場所で、子どもたちがのぼりで墓を突いて、豊作や無病息災を祈願しました。

また牟田地区ではじゃんがらに合わせ、牟田ふるさと夏まつりを開催。そうめん流しや錦鯉のつかみ取りを行い、その鯉を牟田川に放流しました。



「牟田じゃんがら」

## 鷹島町と福島町で国内交流

### ●鷹島町でホークス交流

7月27日から31日にかけて、北海道鷹栖町と鷹島町の児童がホークス交流を行いました。

「鷹」のつく町として、13年前から毎年交流を実施。夏休みに鷹栖町の児童が鷹島町を訪れ、冬休みに鷹島町の児童が鷹栖町を訪問し、互いの環境の違いや地域文化の違いを体験し交流を図っています。



今回は鷹栖町の児童6人が鷹島町を訪れ、元寇の史跡巡りや、海水浴、モンゴル村ゲル宿泊を体験し、地域の人々や、家族とのつながりを深く感じる交流となりました。



## —ホークス交流と三福島交流—

### ●福島町で三福島交流

8月8日から11日にかけて、北海道福島町と長野県木曾町(旧木曾福島町)と福島町の生徒が三福島生徒学習交流を行いました。

「福島」の名を持つ2町と福島町の生徒が交流し、広い視野と豊かな郷土愛を持つ人材の育成を目的として、19年前から交流。夏休みに他町の生徒が福島町を訪れ、冬に福島町の生徒が他町をそれぞれ訪問しています。

今回は、両町の12人の生徒が、福島町の各家庭にホームステイし、福島中学校訪問や魚釣り、市内見学などをして交流を深めました。

